



遊便 (第10号)  
 発行：医療法人 仁風会  
 発刊日：平成28年 4月 7日

巻頭言

「父の愛に思うこと」

医師 松島 嘉彦

七十過ぎの私が「こころのオアシス」仁風会八雲病院に息も絶え絶えたどり着いて一年。穏やかな雰囲気の治療現場の中で、理事長やスタッフ、患者の皆さまにこころ癒やされ励まされ、必死の思いで悪戦苦闘しながら、病気の診断と治療に明け暮れた一年でした。

「食うに困らないから医者になれ」と田舎の父に諭されて医者になったものの、何科を専攻するかで迷った末に解剖学教室に入った私ですが、物にならず級友のアドバイスで精神科に転向。しばらく大学にいて、これからどうするかと考えていたところに、鳥根県の精神衛生センターが設立されるが、今のところそこには誰も行く者がいないと聞いて、自ら希望して赴任。三十八年前のことでした。センターでは、当時は、精神保健福祉の機運の高まりもあって張り切って仕事をしていましたが、やり過ぎて角南讓先生から叱責されたこともありました。なつかしい思い出です。

五十八歳で退職し、鳥取の医療センターに就職。単身赴任での病院勤めはかなりきつかったです。他にもかくにも六十五歳で定年退職。退職後は楽隠居のつもりが、在宅生活が苦痛に感じられてパートで検診車に乗ったり、あちこちの病院や老健施設で働いたものの満足がいかに煩悶すること五年、天の助けに導かれ、期せずして仁風会八雲病院に漂着したという次第です。

自分の半生を顧みると、父は私のことをよく診てくれていたと今では感謝しています。父は村人から慕われていましたが、短気で、身内によく癩癪玉をぶつけていました。父の古希の祝のあいさつで、「父は本物の医者だと思えますが、短気なところが玉に傷です」と私が言って列席した親族からひんしゅくを買ったことがあります。宝石鑑定士によると、本物には小さな傷や曇りがあるとのことですので、私も案外父の本質に「まことの愛」を見ていたのかもかもしれません。

父はよく私たち子供に「人さまを傷つけてはいけない」と言い聞かせていました。村人の健康に責任のある立場の者として自分の子供たちが人を傷つけるようなことをしてもらったら困るといふことがあったのかもしれないが、今にして思うと「体をいたわるように」との私たちに對する愛のメッセージだったように思います。「自分をいたわる」ことを学んではじめて他人を思いやるのが出来るのではないのでしょうか。

毎晩、風呂にはいりながら、「ポンちゃん、手や足、胃腸さんや心臓さんが（私はもう動けません）言ったら困るよねえ」と脳や体と対話しているこの頃です。



|                        |   |
|------------------------|---|
| 遊便第10号：もくじ             |   |
| 巻頭言                    | 1 |
| シリーズ認知症<br>在宅支援のために... | 2 |
| あじさいの会<br>活動報告         | 3 |
| 地域連携を考える               | 4 |
| ミニクイズ<br>たまごさんからのお便り   | 5 |
| 法人アクセス                 | 6 |

# シリーズ 認知症

## 認知症の方の 在宅生活支援のために…

八雲病院 居宅介護支援事業所  
所長 貝谷昭

平成27年1月に認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者などにやさしい地域づくりにむけて～が策定されました。基本的な考え方は「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」というもので、柱となる施策として…

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた時、適切な医療・介護などの提供
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者の支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

という7項目が挙げられています。さらに、具体的な方策で在宅・地域生活支援に関係すると思われるものでは、「認知症サポーターの養成と、活動の支援」、「医療・介護等が有機的に連携し行動・心理症状や身体合併症等がみられても最もふさわしい場所で適切なサービスが提供される循環型の仕組みづくり」

、「早期診断・早期対応のための体制として認知症初期集中支

援チームの設置」、「地域ケア会議で認知症に関わる地域資源の共有・発掘・連携の推進」、「認知症カフェ等の設置」などが考えられています。これらの項目はどれも重要であると思いますが、個別の方策を見ても本当にこの通り推進されるのか？という思いもあります。例えば認知症初期集中支援チームについてですが、早期発見、早期対応が大事ではありますが、どうしても、「見つけて押しかけて云々」というイメージを持ってしまう。「あなたは認知症の初期症状ですよ」というのが関わりの前提になっているからです。認知症に関わらず病気を受容というのはご本人や家族にとって相当なストレスだろうと思いますし、その程度はさまざまです。病気を受容の悩みや心の揺れに対してどうするかというところまで考えられているのだろうかと思ってしまう。

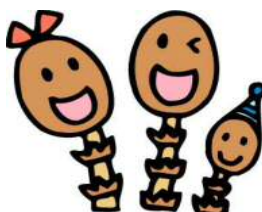
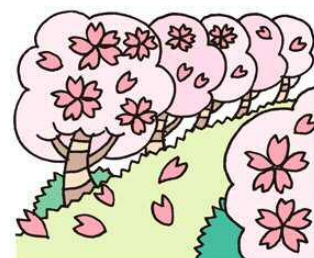
また、その方の容態に応じた最もふさわしい場所での適切なサービスの提供ということについても「最もふさわしい場所」や「適切なサービス」を誰が主体になって決めるのかということです。「認知症の人の意思が尊重」されるのであれば、当然ご本人・ご家族が決めることだろうと思います。医療・介護の側からの押し付けにならないようにどう関わればよいのか考えなければならないところだと思います。プランの基本的な考え方にある「住み慣れた地域の中でその人らしく暮らす」とは、

病気や生活障害のある姿を前提とするのではなく、出来ること



や持っている力に目を向けながら認知症になる前のその方の、あるいは認知症でない方と同じような人として当たり前の生活が続けていけることではないかと思います。制度は制度として必要だとは思いますが、それに基づき実際に行動しているのは、私たち「人」です。人として人に向き合い、その方の場面場面での意思を尊重しながら、それまでの生活が出来るだけ継続できるよう関わっている者みんなが考えていく必要があります。それには、意思決定の代行ではなく意思決定の支援、ご本人の表現力（＝発信力）を問題にするのではなく私たちが目の前の場面から感じ取る力（＝受信力）をどう高められるのか、ネットワークと情報の共有、ご家族への支援などいくつかの視点があると思います。

制度やサービスの利用という表面的な繋がりではなく「信頼できる人と人」の繋がりが、基本になってくると思います。

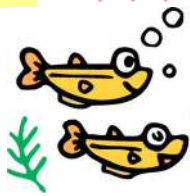


# あじさいの会

簡単で初心者や子供でも楽しめる!!ベテランにも奥の深い面白い釣りなので、宍道湖・大橋川では古くからハゼ釣りが盛んで、松江の風物詩として親しまれています。

当院が主催しているあじさいの会でも、秋の恒例行事として毎年「ハゼ釣り大会」を開催しています。

平成27年10月に大橋川で利



用者さんとボランティアスタッフを合わせて14人の参加がありました。穏やかな晴れのハゼ釣り日和に恵まれ、アットホームな雰囲気の中、思い思いに糸を垂らし、ゆったりとした秋の休日を楽しむことができました。

秋口のハゼは産卵に備えてエサを良く食べるようになるた



釣れるかワクワク

め、ハゼ釣りにとってはまさにベストシーズン。昨年は魚影も濃かったのか、「釣れたー。」の音が例年よりも多かったように思います。

また楽しみといえば、釣ることだけではありません。昼ごはんを現地で食べることも楽しみの一つです。前日から仕込んでおいたカレーライスや、釣りたてのハゼのから揚げなどを食べる姿にも笑顔が見られました。たくさん釣れたので多くの方がその味を確かめられたのではないのでしょうか。参加者みんなが楽しそうで、開催できて本当に良かったと思います。

(秦)

# ボウリング大会

毎年恒例のボウリング大会を、今年も松江センターボウルで開催しました。なじみのメンバーに加え、初参加の人もおられましたが、向かう車内から盛り上がり、参加者の楽しみや意気込みが伝わってきました。小さなハプニングはありましたが、無事全参加者がそろい、ゲームを開始することができました。1ゲーム目ではまだ慣れない様子で各々投げ

ましたが、3ゲーム目になるとスコアも伸びる参加者が多く、勝ちを意識した真剣な様子もみられ、最後まで参加者全員で楽しみました。(川角)



フォームも意識し、ナイスボウル

あじさいの会について(報告)  
昭和六十年から活動をしてきたあじさいの会。活動開始当初は「将来的にはソーシャルクラブ(利用者ご自身が自主性と主体性をもって活動を行うグループ)に発展してもらいたい」との展望を抱いてのスタートでした。しかし、中核となる利用者の発掘、育成には至りませんでした。平行して、時代と制度の流れをうけ、デイケアや地域活動支援センターなどの社会資源も増えました。以上の理由により、平成二十七年をもってあじさいの会の活動を終了し解散するに至りました。今後は、地域活動支援センターがその担い手となって、活動を継承してゆくこととなります。これまであじさいの会へのご参加、ご協力をいただきました皆様方、誠にありがとうございました。

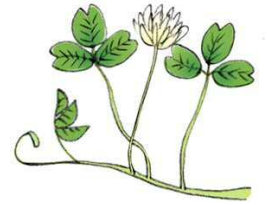


みんな真剣な表情で頑張っています!





## たまごさんからの お便り



平成27年9月に湖東中学校より1年生2人、10月に八雲中学校より3年生2人の生徒さんが福祉体験学習のために、11月に松江西高等学校より2年生2人の生徒さんが介護職員初任者研修の施設実習のために、認知症対応型共同生活介護グループホーム雲陽の里にこられました。

核家族化が進み、高齢者との同居経験のない世代でコミュニケーションに戸惑いながらも、入居者さんと一緒になって手伝いやレク活動に参加しておられました。以下は生徒さんの感想と入居者さん



入居者さんと一緒に野菜の収穫

向けにいただいたお便りです。

(花田)

一言も自分から話せませんでした。恥ずかしいとか失礼なことを言ってしまったらどうしようとか、そんなことばかり考えてしまいました。でもいい経験になったのかなと思いました。

今回の学習で僕が最も強く感じたことは、福祉の仕事は大変ですが、まん強くなければいけないけど、やりがいもあるという事です。

(湖東中学校2人)

とても緊張して上手に話せない中、皆さん方から私たちに若い頃の話や私たちのしていたスポーツなどの話をして下さって緊張もなくなり楽しくお話が出来ました。散歩をした時も手をつないで下さったりしてとてもうれしかったです。

始めはかなり不安で緊張していましたが、皆さんとても優しくそうで安心したし、どうしていいかわからず立っていた僕たちに積極的

に声をかけて下さった時はとても嬉しかったです。お茶をしたり散歩をしたりもしましたね、また機会がありましたらそちらに伺いたいと思います。

(八雲中学校2人)

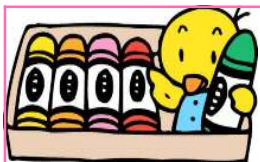
認知症をお持ちの方々と触れ合う機会が今までなかったため、入居者さんとのコミュニケーションの大切さや、受容傾聴の大切さの意味を考えさせられました。

実際に介護体験をして普段学校では習わない事ができたり、その場での適切な対応の難しさやコミュニケーションの大切さなど多くの事が学びました。

(松江西高等学校2名)



一緒に笑顔で観戦



## かおるさんのミニクイズ

1問 一子さんの後ろ側にはいつも六地藏さんがいます。隣の二次男さんの向かいには五郎丸さんが控えております。三脚立てて四人のアスリートの活躍を写します。さてなんででしょうか？ ヒントは1, 2, 3, …フッフ

2問 次は新大阪、新神戸、…福山…に止まります。3月9日から銀河鉄道999の音楽で発車します。さて ???? なんででしょうか？

3問 台湾で、この日のために各地で紙を漉き、願い事を書いてホテルブックロのような風船の中に火を燃やし宙に飛ばすお祭りは「天燈祭り」ですが、この「天燈」何と読むでしょうか？

4問 リクルートを成功させるためやってはいけない事の文章を完成させてください。  
×「ていうかわタシ的には御社、ミタイナ…」とした若者が使いそうな言葉ですが、  
ものおじしないのは( 1 )が、リラックスし過ぎて( 2 )が出ないようにご用心。( 3 )などの略語も基本的に使わない事。

(答えは5ページの下部に↓)

## 地域連携を 考える

## 暮らしやすさ日本一を考える 地域ケア勉強会開催

平成22年度から「お互いの顔の見えるネットワーク作り」を目的に、大庭・八雲地区の民生委員の方と医療・福祉・介護サービスの関係者を対象に、認知症や心のケアに関する地域に向けた勉強会を行ってきました。更に今年度から古志原地区の民生委員さんにも声をかけさせていただきました。

平成27年4月に「地域の暮らしやすさ指標の貨幣価値」で、松江市が全国1位の指標となったことを受け、第4次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会や市民ワークショップにおいて活発

な協議が進められている中、松江市において、今後どのようにネットワークを強化し、地域作り・街づくりを進めてゆくののかについて地域の皆さんで考える機会を作りたいと考え、勉強会を企画しました。

健康福祉部の須山さんから、「なぜ松江市が日本一になったのか」など、ご説明いただいた後で、グループに分かれて活発な話し合い、するどい提案・意見が多数あがりました。次回も多くの皆さまのご参加をお待ちしております。ありがとうございました。

(森脇)



須山さんの講義を真剣に聴く参加者



## 平成27年 あったかX'masコンサート

12月8日(火)午後、第18回のクリスマスコンサートが開催されました。平日の午後の開催も板についてきて101人のお客さんに来場いただきました。

出演者は、初出演として、朴さん、阿部さん、高橋さん(絵本読み)、つくしさんの応援団として因幡さん、常連組のつくしさん、樋野さん、Ⅱ病棟デイケアさん、デイケアたんぼぼさん、スタッフの貝谷、総勢9組が演奏と歌を

披露して下さいました。ライブの前後では、パンやレザークラフト、工芸品などの販売(まるべりー松江さん、松江あけぼの会さん、しののめさん、びふれレザークラフト部)もあり、ちょっと早いクリスマスを多くの皆さんで楽しむことができました。

(次回のコンサートは7月開催予定です!)



初出演  
朴さんのハートフルなギター弾き語り



ミニクイズの答え 1問：サイコロ 2問：JR西日本の新幹線ホーム 3問：ランタン  
4問：1良い、2学生言葉、3バイト、コンビニ



わたくしたちは心の声を大事にします  
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

## 医療法人 仁風会

○八雲病院外来診療時間午前中のみ

平日8:30-12:30/土 8:30-12:30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話(0852)23-3456(代表)

FAX(0852)23-3495

・デイケアたんぽぽ(精神科デイケア)

※お問い合わせは代表まで

月曜日-金曜日 午前9:30-午後3:30

・デイケア八雲(重度認知症デイケア)

※お問い合わせは代表まで

月曜日-金曜日 午前9:00-午後3:40

○コスモス(自立訓練【生活訓練】事業所)

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3360

FAX(0852)23-3370

○ビ・フレンドینگ(地域活動支援センター・相談支援事業所)

松江市大庭町1461-3

電話(0852)23-4111

FAX(0852)23-4112

○雲陽の里(認知症グループホーム・介護保険)

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3700

○居宅介護支援事業所 医療法人 仁風会 八雲病院

※お問い合わせは代表まで

## ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・感想などございましたら、ぜひ下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会、広報誌「遊便」共々よろしくごお願い致します。

〒690-0033

松江市大庭町1460-3

(医)仁風会 広報委員会

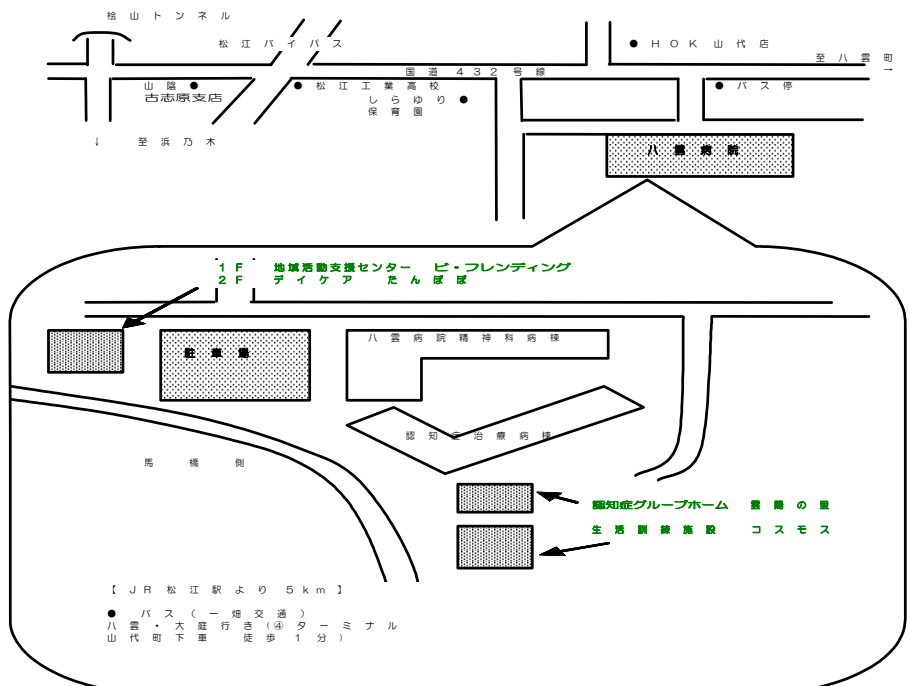
## お知らせ

※平成27年8月より通院患者さまのみ外履のままご利用いただけます。転倒防止のため、泥や水滴をマットで落としてお入り下さいますようお願い致します。面会の方はスリッパに履き替えてお入り下さい。

※面会入り口が正門玄関入り口から駐車場奥の認知症病棟入り口に変更になりました。

※外来の開錠時間が朝7時15分となりました。ご了解の程よろしくごお願い致します。

## 【ご案内】



## 編集後記

今年(若槻)は暖冬で比較的雪も少ない冬だったこともあり、あつという間に春が来たような感じがします。月日の速さに焦りを感じ、何か新しい事に挑戦しようという思いはあるのですが、なかなか実行できず、「明日から頑張ろう」と口癖のように心で唱えている今日この頃です。